



TITLE:

附属図書館に『京都古地図コレクション』の寄贈

AUTHOR(S):

CITATION:

附属図書館に『京都古地図コレクション』の寄贈. 静脩 2001, 37(4): 17-17

ISSUE DATE:

2001-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37611>

RIGHT:

にアメリカに行ってみて本当に貴重な経験をさせていただきましたし、考えさせられるところもいろいろありました。最後になりましたが、

お世話いただいたみなさまに改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(ごとう けいた)

附属図書館に『京都古地図コレクション』の寄贈

このほど附属図書館では、京都市上京区在住の大塚隆氏から、『京都古地図コレクション』の寄贈を受けた。寄贈を受けた古地図は、江戸期から近代に至る京都に関する地図の唯一といえる体系的コレクションである。総数は470余枚に及び、そのうち280枚は江戸期及び明治期前半に作製されたものである。

コレクションの中には、江戸期に印刷された現存する本邦最古の京都市街図である『都記』(みやこのき) 通称『寛永平安町古圖』(刊年、版元不明)が含まれている。蔵書印からこれまでに何人かの所有者の手を経たことがわかるが、中には木村蒹葭堂・富岡鉄斎の蔵書印も見える。これは重要文化財にも匹敵するものと言われている。江戸期京都図の版元を代表する林吉永・竹原好兵衛など主要な版をほとんど網羅している。

また、同じ版でも手書きで彩色されたもの、彩色印刷されたものがあるなど、比較して見ると興味深い地図が沢山ある。町中を子細に眺めると、正面通りの東詰に大仏があったことが分かるほか、現在に残る通りの名前があり、改め

て京都の長い歴史を感じさせる。周辺に目を転ずると、三井寺を表すためか琵琶湖が描かれている地図もある。

これらは、人文・社会科学分野のみならず、広範囲の研究者にとって第一級の学術研究資料であり、今後の研究者による活用が大いに期待される場所である。

このコレクションは、金田章裕文学研究科教授の永年にわたる同コレクションに関する研究を縁として寄贈に至ったものであり、寄贈者の大塚隆氏に対して、平成12年12月19日(火)総長室において、佐々木丞平附属図書館長、金田章裕文学研究科教授、熊谷俊夫附属図書館事務部長等の出席のもと、長尾真総長から感謝状の贈呈が行われた。

附属図書館ではこの古地図を『大塚京都図コレクション』として貴重図書に指定し、整理・保存していくだけでなく、図録の作成、公開展示会の開催のほか、現在推進している「電子図書館システム」によるネットワーク上でも公開することにより、広く利用していただくことも計画している。

